



# 横浜の下水道遺構マップ



下水道を知ろう！HP

## 1 県庁付近

1880年代に布設されたレンガ造りマンホールがこのあたりで見つかりました。現在は崩れないように補強して地中に保存されているため見ることはできませんが、都市発展記念館④にレプリカが展示されています。

## 2 開港広場

◆レンガ造りマンホール  
開港広場の工事中に見つかりました。布設当時のまま展示されています。



## 3 日本大通り駅

日本大通り駅の建設工事に大下水が見つかりました。駅のコンコースには、大下水と発掘の時の様子の写真が展示されています。

## 4 横浜都市発展記念館

◆レンガ造りマンホールレプリカ

## 5 中土木事務所

◆卵形管  
(小下水)



## 6 横浜公園

◆フランドン胸像

横浜最初の下水道はフランドンの指導により整備されました。



## 7 中部水再生センター

◆卵形管  
(大下水・中下水・小下水)

中区本牧十二天にある横浜で最も古い水再生センター(下水処理場)です。ここでは、横浜下水の100年の歴史を担ったレンガ造りの卵形管大下水などが大切に保管されています。

※見学には予約が必要です。

中部水再生センター  
中区本牧十二天1-1  
☎045-621-4114

## 8 元町公園

◆石造側溝  
◆スラブ溝記念碑

1874年から翌年にかけて布設された石造りの側溝が現在も雨水を流すのに使われています。公園の中には側溝の構造がよくわかるスラブ溝記念碑があります。



## 9 山手公園

◆石造側溝  
◆近代下水道記念碑

バス通りから公園に続く道には、100年以上前に作られた石造りの側溝スラブ溝が今も使われています。このスラブ溝をたどって公園わきの階段を下りていくと、横浜の下水管の総延長が10,000kmを超えたことを記念する石碑が立っています。



※「大下水」「中下水」「小下水」については裏面をご覧ください。

# 横浜の近代下水道発祥の歴史

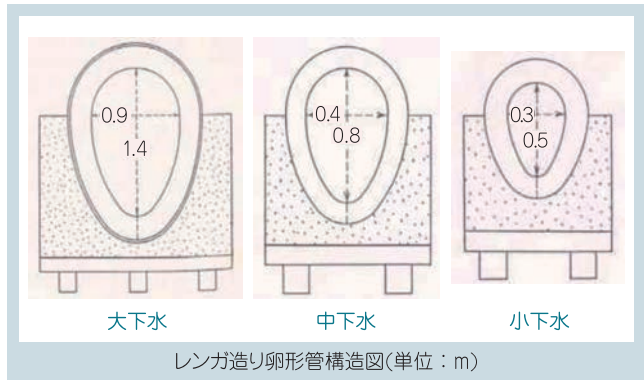
1869(明治2年)	英国人プラントンRichard Henry Brunton (1841-1901)により関内外国人居留地の下水道整備計画着手
1871(明治4年)	下水道整備工事完成
	その後居留地住民が急増したため規模の拡大が求められる
1880(明治13年)	三田善太郎を責任者として下水道改修計画着手
1887(明治20年)	下水道改修計画完了 レンガ造り卵形管約4km、陶管12.6km布設完了 日本初の近代下水道網の誕生

# 横浜の下水道の技術

## ◆卵形管

卵形管は流量が少ないときでも流速が落ちない特性から、砂や汚物が管にたまりにくい利点があります。卵形管は英国人のジョン・フィリップが1846年に考案しましたが、これを1880年から横浜下水道改修工事に携わった三田善太郎が採用しました。

この卵形管は、レンガとセメントを使って建設現場で造られました。レンガ造り卵形管は、大きさにより「大下水」「中下水」「小下水」に分類されます。



## ◆レンガ造りマンホール……

1880年から始まった改修計画で卵形管とレンガで造られたマンホールが築造されました。マンホールは37個作られたという記録がありますが、そのうちのひとつが築造から100年程度経った1982年に見つかりました。大さん橋入口にある開港広場の工事中に発見され、その場所にそのまま保存されています。2本の中下水卵形管が接続されている様子をガラス越しに見ることができます。このマンホールは、1998年に下水道施設として初めての国登録有形文化財に登録されました。

この時代に築造されたレンガ造りマンホールの一部は、今も横浜市内で使われています。

## ◆高性能なマンホール……

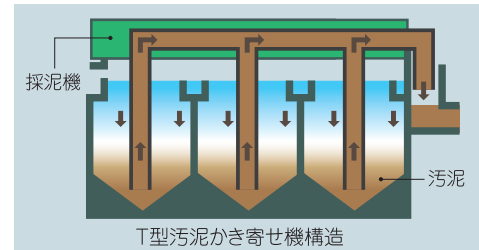
2001年に県庁付近でもレンガ造りマンホールが見つかりました。これには臭い対策として炭箱やJ字鉄管のトラップが施してありました。この時見つかった実物は、崩れないように補強して、あった場所にそのまま保存されています。



発見場所のすぐ近くにある都市発展記念館では原寸大のレプリカが展示されており、内部の構造がよくわかります。

## ◆汚泥かき寄せ機 (中部水再生センター)……

中部水再生センターは1962年に運転を開始した横浜市最初の下水処理施設です。下水処理の際最終沈殿池から汚泥を引き抜く装置にはサイフォン機能を活用して動力費の低減を図ったT型汚泥かき寄せ機が今も現役で使われています。このような昔の技術を継承している水再生センターは横浜市内に1つしかありません。



## ◆青図 (青焼き) ……

中部水再生センターの設計図には青図(青焼き)が用いられていました。トレーシングペーパーに図面を手書きし感光紙に複写する技法は1980年代までは広く使われていましたが、青く発行した感光紙上に文字や線を白く残すという方法はおおむねこのころまででした。

